

2020年8月海洋観測結果について

7月28,29日に栽培漁業センターの調査船「おしどり」により海洋観測を以下の表1、図1の調査点で行いました。調査結果については、当センターホームページ (<https://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=201810>) と沿海漁協にはファクシミリで通知します。

表1 観測地点

	調査点	海底水深	経度	緯度
赤碕ライン	ST-1	13m	133.40	35.3100
	ST-2	50m	133.40	35.3430
	ST-3	70m	133.40	35.3736
	ST-4	95m	133.40	35.4340
	ST-5	185m	133.40	35.4805
長尾鼻ライン	ST-6	185m	134.00	35.4300
	ST-7	95m	134.00	35.4000
	ST-8	70m	134.00	35.3700
	ST-9	50m	134.00	35.3400
	ST-10	13m	134.00	35.3200

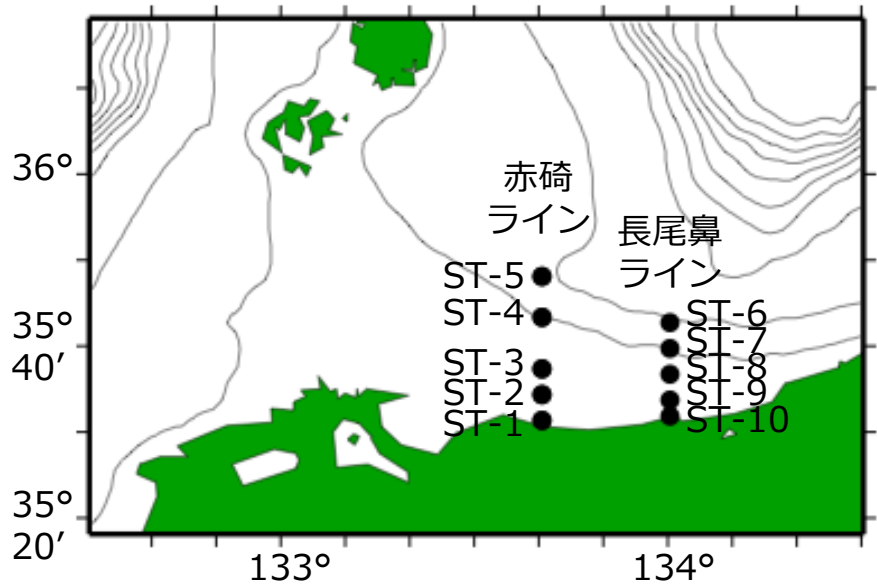
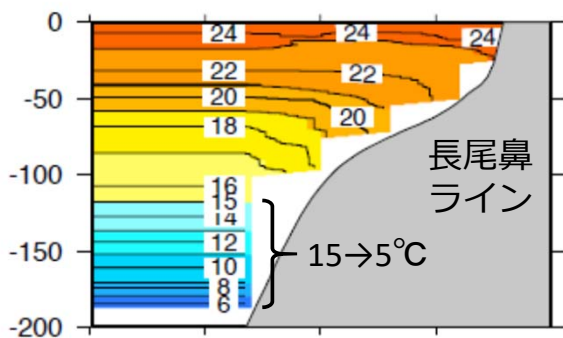
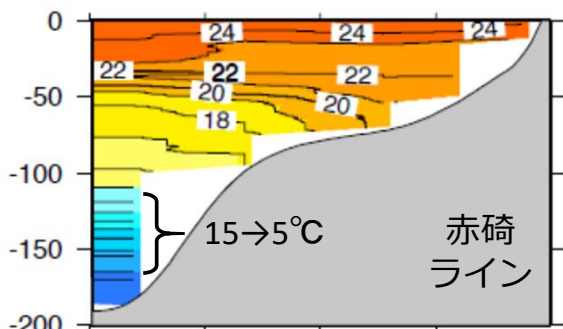


図1 観測地点

【鉛直分布図】

赤碕、長尾鼻ラインともに気温の上昇に合わせ、表水温が上昇し、24℃以上になっています。また、海面付近と下層の温度差が大きくなり、表層混合層は薄くなっています（上と底の水が混ざりにくくなる）。

今後、梅雨が明け、日射が増えると、さらに表層付近のみ顕著に温度が上昇する見込みです。



★大型クラゲ情報★

現在のところ大量出現の予兆は見られません。なお、7月22日には隠岐の島後の北側で、第一鳥取丸が大型クラゲと思われる個体を確認しています。

★ソデイカ（あかいか）情報★

5月の沖縄県漁獲量は、直近5年平均より13%多かったです。親となる大型個体の比率が少ない結果となっています。
※序盤の来遊がかなり不安な状況です

図2 鉛直分布図（海水温の単位：℃）

5 7 9 11 13 15 17 19 21 23 25

【8月観測の水深帯別の比較】

天候不順の影響で、赤碕、長尾鼻ラインの水深0mの水温が平年より、1℃以上低い結果となりました（表2）。

表2 各調査ラインの水深帯毎の平均水温

調査定線	赤碕ライン (133° 40')				長尾鼻ライン (134° 00')				
	水深帯	0m	30m	50m	90m	0m	30m	50m	90m
2020年		24.6	22.4	20.2	16.6	24.5	22.2	20.9	17.4
前年		23.6	21.1	18.7	16.8	23.7	21.1	19.6	18.0
2010-19年平均		25.7	22.2	19.8	17.1	25.8	22.3	20.3	17.4
平年差		-1.1	0.2	0.5	-0.5	-1.3	-0.1	0.6	0.0

【2020年5月の主要魚種の漁獲動向】

鳥取県漁獲情報システムの5月速報値から、主要魚種の漁獲量比較を行いました。総漁獲量は、前年、5年平均（2015-19年）を下回りました（図3）。前年、5年平均を上回った魚種は、アカモク、ケンサキイカ（白いか）年、前年を上回った魚種はスルメイカでした。新型コロナウイルスの影響でマダイ等では獲り控え、小型底びき網では出漁日数の減少が見られました。

出漁日数の減少が見られました。

コロナ禍が影響
※安値による操業自粛が影響

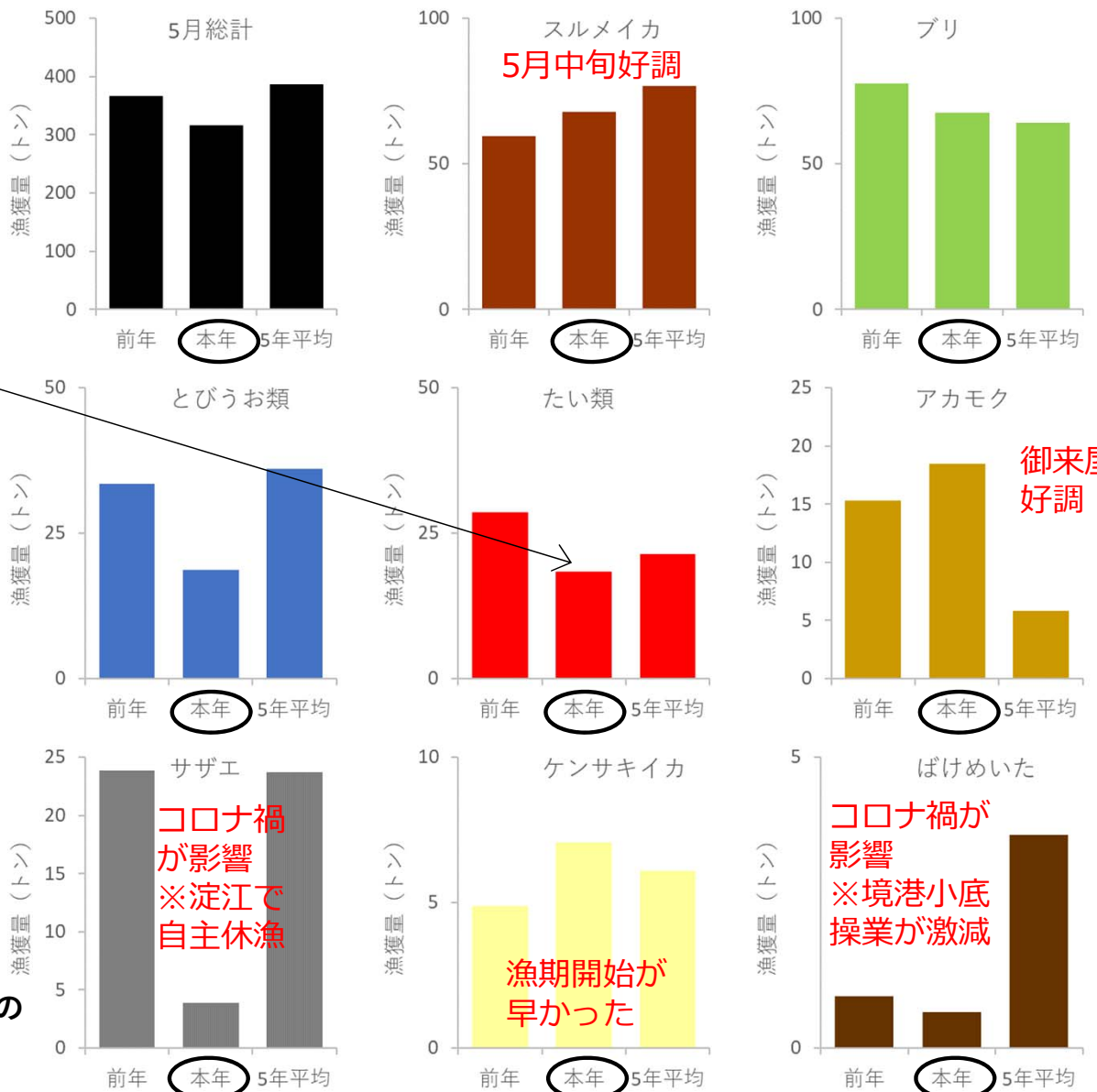


図3 5月沿岸漁業の主要漁獲物の漁獲状況